

スポーツでまちを盛り上げよう！

地域でのスポーツ活動を通じて、世代を超えた交流を支えるスポーツ推進委員の活動を紹介します。

図スポーツ振興課(☎504-2503、☎504-2066)

スポーツを通じて 地域を活性化

スポーツ推進委員とは、市が委嘱する非常勤の公務員です。各小学校区の人口に応じて2～4人が委嘱され、5月1日時点で362人の委員が各地域で活躍しています。

健康づくりのための運動や各種スポーツの実技指導、スポーツ行事の運営などを行うほか、住民の身近な立場から、市のスポーツ振興を支える重要な役割を担っています。

また、スポーツ指導や助言に必要な知識・技能の向上を図るため、研修会などにも参加し、推進委員同士の交流や情報交換を通して連携を深めています。

◆主な活動内容

学区における運動会、区民スポーツ大会、市スポーツ・レクリエーションフェスティバルの企画・運営

スポーツ教室の企画・実施

ニュースポーツの体験・普及活動

各種研修会・講習会への参加

学区体育協会と連携

スポーツ推進委員になるには、学区体育協会の推薦が必要です。

学区体育協会とは、地域スポーツ活動の中心を担う団体として各小学校区にあり、「体協」という呼び方で親しまれています。体協の主な事業は、次のとおりです。

●町民運動会や各種軽スポーツ大会の開催

●派遣事業：区民スポーツ大会や市スポーツ・レクリエーションフェスティバルなどへの派遣

●クラブ活動：ソフトボール、バレーボールなど各種目別の部を組織し、小学校の体育施設を中心に活動

推進委員は、体協と連携して、地域スポーツの振興に貢献しています。推進委員には、安全保険への加入や研修会への参加費用に充てるため、月額8,000円の謝礼があります。

活動の様子など詳しくは、市ホームページで。

市HP ページ番号 1020607



report

地域のイベントから全国規模の大会まで支える推進委員

7月下旬、スポーツイベント「トップアスリートとわくわくうんどうかい」が、広島サンプラザで開催されました。西区を拠点にするトップスポーツチームの選手と同区の小学生100人が熱気と歓声に包まれる中、スポーツや催しを存分に楽しみました。

このイベントを支える多くの人のうち欠かせないのが、スポーツ推進委員です。この日は、そろいの青いポロシャツを着て、女性5人、男性6人の計11人が開会の約2時間前から集まり、事前打ち合わせ、会場設営などの準備を行いました。開会後は、トップスポーツの各競技を基に考えられた四つのコーナーをトップアスリートと一緒にこどもたちが体験。推進委員は各コーナーの運営やこどもたちの補助を行い、笑顔あふれる時間になりました。

スポーツ推進委員を始めて3年になる古井和代さん(50)は、「PTAのバレーボールをしていた縁で誘われ推進委員になりました。月に1、2回ほど、地域のスポーツイベントのお手伝いなどを行っています。また、ニュースポ



ーツの体験や研修を行うなど、地元にスポーツの楽しさを広める活動に取り組んでいます。スポーツを通じて、地域のいろいろな人と交流できることが魅力です。今日のように、鍛えられたトップアスリートと触れ合えることもあり、非常に励みになります」とほほ笑みます。

平野竜史さん(61)は、推進委員になって23年という大ベテラン。ライフワークのジョギングと、推進委員の活動に取り組んでいます。「地域行事から全国都道府県対抗駅伝まで、幅広くスポーツを通じて地域に貢献できることが、自分自身の成長にもつながり、やりがいを感じています。元気が続く限り、頑張っていきたいです。今後は、若い人たちにも推進委員の活動を知ってもらい、仲間になって一緒に地域のスポーツを盛り上げていってほしいですね」と生き生きとした笑顔を見せてくれました。



夜間急病センターのご利用を

市内2カ所(中区千田町、安佐北区可部南)にある夜間急病センター。夜間に熱が出たときなど、救急車を呼ぶほどではないけれど朝まで待つのが不安な場合は、夜間急病センターをご利用ください。

図医療政策課(☎504-2178、☎504-2258)

中区と安佐北区に常設

夜間急病センターは市内の医師会が運営する、夜間の急病に対応するための医療機関です。

総合病院は重症患者の治療を行う役割を持っており、緊急性を要しない患者が多数受診すると重症者の受け入れが難しくなってしまいます。かかりつけ医の診療時間外となる夜に急な発熱や咳込みなどの体調不良となったときは、同センターをご利用ください。

受け付けは午後10時半まで

同センターで診察するのは、次のような症状がある軽症の患者です。

【対象となる症状の例】

●熱が出た ●お腹が痛い ●咳が止まらない ●軽い打ち身や切り傷(千田町のみ)など

【利用にあたって】

●受診前に必ず電話でお問い合わせください ●原則応急処置のみで薬を処方する場合は1日分です ●いずれも駐車場完備(救急車では来院不可)です ●検査、入院が必要な場合は医療機関を紹介しす ●翌日以降に、かかりつけ医も受診してください

同センターについて詳しくは、市ホームページで。



比較的すいて
いることもあります。
ご利用を！

広島市医師会
千田町夜間急病センター



【診療科目】内科(15歳以上)、眼科、整形外科、外科(けが)
【受付時間】19:30～22:30
【休診日】12月31日～1月3日
【所在地】中区千田町三丁目8-6
図☎504-9990、☎504-9991

安佐医師会
可部夜間急病センター



【診療科目】内科(15歳以上)
【受付時間】19:00～22:30
【休診日】(日)、(祝)、(休)、12月31日～1月3日
【所在地】安佐北区可部南二丁目1-38
図☎814-9910、☎814-9909

見守りシールをご存じですか



認知症の人が自分らしく住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、市は、見守りシールを活用した「認知症高齢者等保護情報共有サービス」を提供しています。

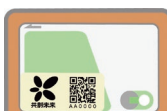
図地域包括ケア推進課(☎504-2988、☎504-2136)

衣服や持ち物に付けた二次元コードで安全・迅速に保護

道に迷う恐れのある認知症高齢者などに、スマホなどで読み取ることでできる二次元コードが印字されたラベルシール(見守りシール)を交付します。

認知症高齢者などが道に迷った場合などに、発見者がコードを読み取ることで、発見者と家族が安否情報をインターネット上の伝言板で共有。発見から保護、家族への引き渡しまで、安心・安全・迅速に行うことができます。「どこシル伝言板システム®」を活用することなく、身元確認や家族への引き渡しが円滑に行われます。

◆見守りシールの貼り付け例



※貼り付けの例で、シールは市のもものではありません

1 道に迷った認知症高齢者などを発見
発見者が衣服の二次元コードを読み取り

2 発見者は伝言板にアクセス
利用の流れを確認

3 家族に自動メール
24時間365日連絡をすることができる

より多くの人に知ってもらいたい

地域でお困りの高齢者などがいて、服や持ち物にこの二次元コードがあったら、読み取ってください。より多くの人にこのサービスを知ってもらえれば、道に迷った認知症高齢者などの発見がしやすくなります。サービスの利用についてなど詳しくは、市ホームページで。申請などについては、区地域支えあい課で。



図区地域支えあい課

区	連絡先	区	連絡先
中	☎504-2586 ☎504-2175	安佐南	☎831-4568 ☎870-2255
東	☎568-7731 ☎568-7790	安佐北	☎819-0587 ☎819-0602
南	☎250-4109 ☎254-4030	安芸	☎821-2810 ☎821-2832
西	☎294-6289 ☎294-6113	佐伯	☎943-9728 ☎923-1611